

## 2023 年前・後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—キャリアセンター—

センター長 南山浩二

全学共通教育科目のキャリアセンター開講科目での授業改善アンケート実施対象科目は15科目であり、その内14科目においてアンケートが実施されました。

授業全体に対する評価である項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は、4.71と昨年度(4.70)に引き続き高評価を維持しています。さらに、項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」と、項目12「この分野への興味・関心が引き起こされた」(相関係数0.73)、項目13「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」(相関係数0.70)などが、強い正の相関関係を示しています。以上のことから、学生の学修状況もふまえながら適切に授業運営が行われており、その結果、学生の授業への満足度も高くなっていると言えるでしょう。

また、授業に用いられた授業手法ですが、大学全体と比較して、すべての項目において回答率が上回っており、授業内容に合わせた多様な手法が採用されていることが分かります。グループワーク(回答率:70.9%)、課題(レポート等)(回答率:69.0%)、ディスカッション(回答率:55.6%)、などの回答率が高く、これらがキャリアセンター開講科目の特徴的な授業手法となっていると言えます。こうした特徴に加えて、「学生によるコメントペーパー」(回答率:47.6%)や「質疑応答」(回答率:32.6%)も回答率が高く、学生の学修状況もふまえながら学生の主体的な取り組みを促す工夫も行われているものと思われます。

授業を通じて身についた資質・能力ですが、キャリア科目の特徴からしてやや関連性が低いものと思われる「数理的能力」「言語運用能力」などを除いて、その他の全ての項目において、大学全体の回答率を顕著に上回っていることが分かります。「コミュニケーション能力」(63.6%)、「この分野の知識、学力」(58.8%)、「協働力」(43.5%)、「柔軟な発想力」(42.5%)、「プレゼンテーション能力」(38.7%)、「人脈形成力」(35.1%)などで、高い回答率が得られています。また、「俯瞰力」「課題発見力」「課題解決力」なども大学全体と比較して高い回答率を示しています。これらのことから、キャリアセンター開講科目が大学のディプロマポリシーにもつながる多様な資質・能力を育成するきっかけとなっており、学生のリーダーシップを涵養し主体的行動を促す授業が行われていると言えるでしょう。

以上